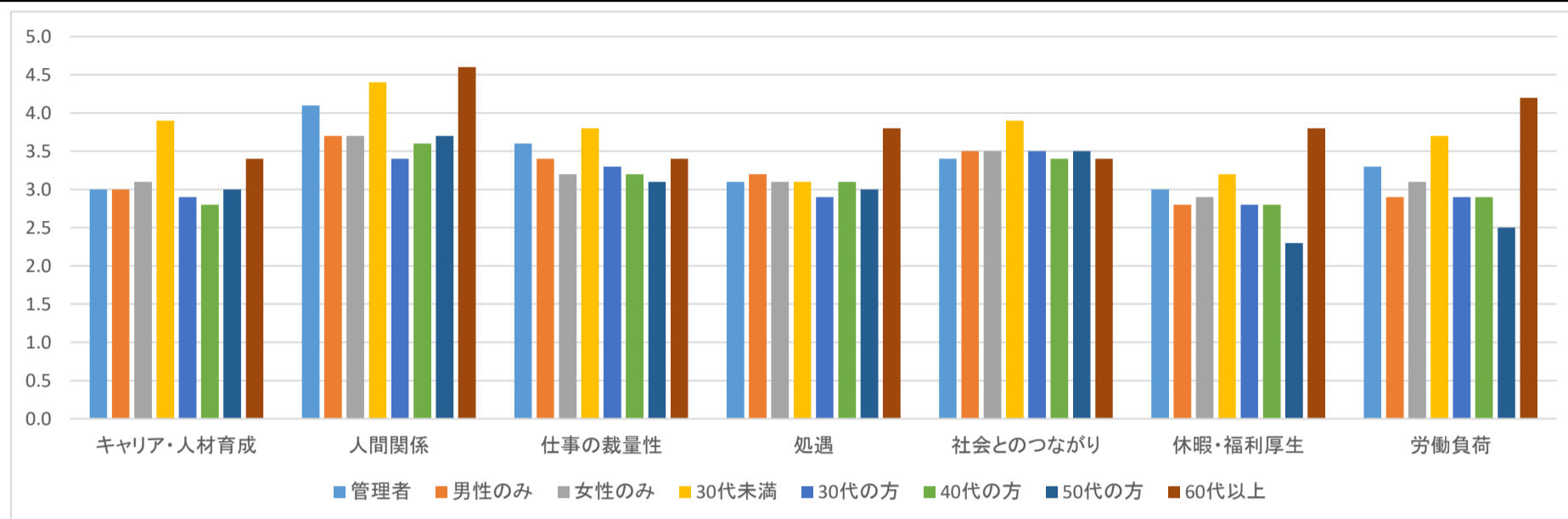


アンケート回答率

	配布枚数	回答者数	回答率
管理者	17	10	59%
一般職員	130	68	52%

	区分	人数	キャリア・人材育成	人間関係	仕事の裁量性	処遇	社会とのつながり	休暇・福利厚生	労働負荷	全平均
性別分け	管理者	10人	3.0	4.1	3.6	3.1	3.4	3.0	3.3	3.3
	男性のみ	18名	3.0	3.7	3.4	3.2	3.5	2.8	2.9	3.2
	女性のみ	50名	3.1	3.7	3.2	3.1	3.5	2.9	3.1	3.2
年代分け	30代未満	7人	3.9	4.4	3.8	3.1	3.9	3.2	3.7	3.7
	30代の方	13人	2.9	3.4	3.3	2.9	3.5	2.8	2.9	3.1
	40代の方	26人	2.8	3.6	3.2	3.1	3.4	2.8	2.9	3.1
	50代の方	9人	3.0	3.7	3.1	3.0	3.5	2.3	2.5	3.0
	60代以上	12人	3.4	4.6	3.4	3.8	3.4	3.8	4.2	3.8
	平均		3.1	3.9	3.4	3.2	3.5	3.0	3.2	3.3



調査結果の全体プロフィールでは、管理者と一般職員（男女別、年代別）の快適職場感の開きが少なく、全体に標準範囲を逸脱していないため、ほぼ快適な職場環境にあると言えます。

標準範囲＝3.0としています。

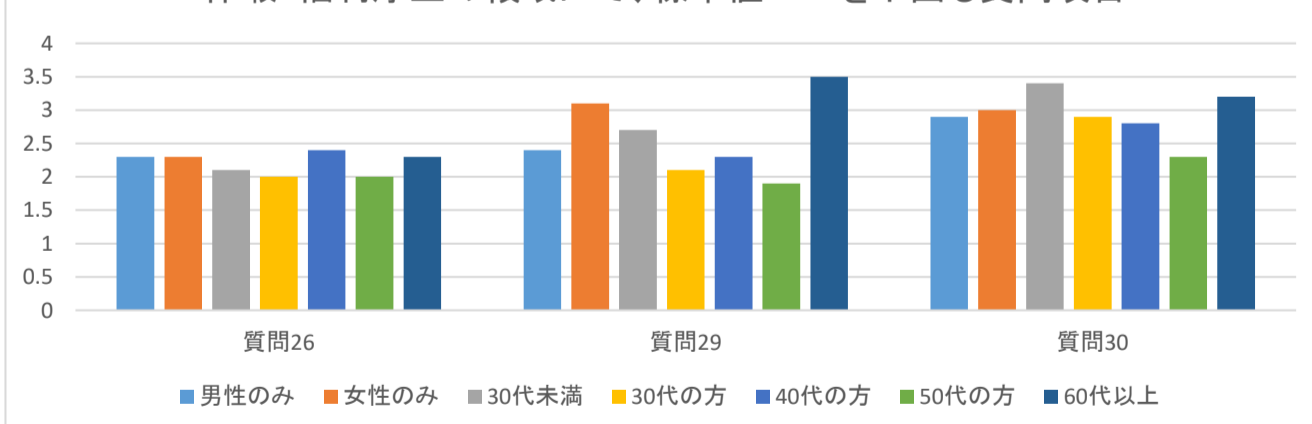
標準範囲より低い点の項目は、「キャリア・人材育成」「処遇」「休暇・福利厚生」「労働負荷」が、各区分で数値として表れています。全体的な平均値の一番低い数値は、「休暇・福利厚生」です。性別・年代別に分けても平均値の低さが目立ちます。

「休暇・福利厚生」の詳細を調査してみたところ、

- 質問26 この職場には、世間よりも長い夏季休暇や年次休暇がある。
- 質問29 この職場には、心や身体の健康相談にのってくれる専門スタッフがいる。
- 質問30 心や身体の健康相談のために、社外の医療機関などを気軽に利用できる。

		休暇・福利厚生					
	区分	人数	質問26	質問27	質問28	質問29	質問30
性別分け	男性のみ	18名	2.3	3.2	3.3	2.4	2.9
	女性のみ	50名	2.3	3.3	3.3	3.1	3
年代分け	30代未満	7人	2.1	3.8	4	2.7	3.4
	30代の方	13人	2	3.5	3.4	2.1	2.9
	40代の方	26人	2.4	3.3	3.5	2.3	2.8
	50代の方	9人	2	2.8	2.6	1.9	2.3
	60代以上	12人	2.3	3.6	3.3	3.5	3.2
	平均		2.2	3.4	3.3	2.8	2.9

休暇・福利厚生の領域にて、標準値3.0を下回る質問項目



領域6「休暇・福利厚生」に関して言えば、「年次有給休暇や特別な休暇（産休、育休、介護休暇）は、取得しやすいが、世間と比べると夏季休暇等はなく、長い休みが取れていないと感じます。また、心身の健康相談への対策が不十分であると感じられます。

問題点の把握、課題の抽出、整理

全体的によい結果だと思います。休暇（特に長期休暇）をとりやすい雰囲気づくりが必要だと感じられます。

改善計画の検討・立案

世間と比較し、年次有給休暇は十分に付与されています。業界（職場の特殊性）」により、平均値以下の数値が出ました。

長期休暇を取得するには、困難なケースかもしれませんが、長期休暇の取得しやすい職場環境を整備する必要があります。

2019年4月より施行された「年次有給休暇5日消化」の実態は、該当職員全職員が、「5日以上を消化しています」

今後は、ブロックミーティング等を使用して、年度初めに「今年の長期休暇取得ができる月に関して、話し合うことも一つの手だと考えられます」

この目標（長期休暇取得＜連続5日以上/1年＞）が、取得できるようになれば、「世間よりも長い休暇が取りやすい環境」になるのではないのでしょうか。

2019年1月から12月の1年間で、常勤職員（現在在籍中。退職者は含めず）の連続休暇（有給と公休を含んで）を調査したところ、該当者70名中、5日以上連続休暇が取れた職員数は、27名。4日連続までであった職員数は、16名。3日連続休暇までしか取れなかった職員数は、27名。